

持続可能性が脅かされている世界を変えるために

生協は、持続可能性が脅かされている世界と日本の状況を変えたいと考え、2030年にありたい姿をイメージしながら、この「生協の2030環境・サステナビリティ政策」を策定し、アクションを起こすことにしました。

地球温暖化問題

地球温暖化は気温上昇のみならず、地球全体の気候を大きく変える「気候変動」を引き起こします。そして異常気象や海面上昇、干ばつによる食料不足などをもたらし、人間の生活(特に途上国)に大きな影響を与えます。2024年は産業革命以降でもっとも気温が高い年となりました。



森林資源の減少

木材、大豆、牛肉などを生産するための土地開発は、森林減少のおもな要因です。日本の一人当たりの紙消費量は世界第8位で、日本で生産される紙の原料の7割以上が海外由来です。



海洋資源の減少

持続可能なレベルで漁獲されている海洋資源は世界で65%に減少しました。おもな原因は獲り過ぎや違法漁業、海洋環境の悪化などです。



食品廃棄物問題

世界では食料の5分の1が廃棄されている一方で、4人に1人の子どもが深刻な栄養不足に苦しんでいます。



プラスチック問題

使い捨てプラスチックが海へ流出し、海洋汚染を引き起こすとともに、生態系に悪影響を与えています。プラスチックは生産と廃棄燃焼時に温室効果ガスを排出します。



サプライチェーンにおける労働問題・人権問題

海外では、アブラヤシやカカオ農園における児童労働や、綿花栽培農場や縫製工場での強制労働などが報告されています。日本でも外国人技能実習生への人権侵害などがあります。



生協の 2030環境・サステナビリティ政策

すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球を、未来のこどもたちへ

「生協の2030環境・サステナビリティ政策」は、持続可能な社会を実現するために全国の生協で推進する2030年までの政策です。本政策は具体的なアクションプランである「10の行動指針」と、将来のありたい姿をイメージしながら設定した「2030目標」によって構成されています。

生協は、『すべての人々が人間らしく生きられる豊かな地球』を次世代へ手渡せるよう、組合員をはじめさまざまなステークホルダーと協働しながら本政策に取り組みます。

生協は「2030環境・サステナビリティ政策」を通じてSDGsの実現に貢献します

生協は「人間らしい暮らしの創造と持続可能な社会の実現」を理念に掲げる組織として、持続可能な開発目標(SDGs)を支持しています。本政策の実施を通して、SDGsの実現に貢献していきます。

コープSDGs 行動宣言

— 私たちは、おもに以下の7つの取り組みを通じて、世界の人々とともにSDGsを実現していきます

1 貧困をなくそう
世界から飢餓や貧困をなくし、子どもたちを支援する活動を推進します

3 すべての人に健康と福祉を
健康づくりの取り組みを広げ、福祉事業・助け合い活動を進めます

5 ジェンダー平等を促進しよう
ジェンダー平等(男女平等)と多様な人々が共生できる社会づくりを推進します

11 住み続けられるまちづくりを
誰もが安心して暮らし続けられる地域社会づくりに参加します

12 つくる責任 つかう責任
持続可能な生産と消費のために、商品とくらしのあり方を見直していきます

16 平和と公正をすべての人に
核兵器廃絶と世界平和の実現をめざす活動を推進します

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
13 気候変動に具体的な対策を

地球温暖化対策を推進し、再生可能エネルギーを利用・普及します

※もともとも関連の深いSDGsのゴールを記載しています

「コープSDGs行動宣言」は、第68回日本生協連通常総会(2018年)にて採択されました。全国の生協は、上記の取り組みに関して具体的な実践を展開しています。

各生協の取り組みは、日本生協連webページに掲載されているサステナビリティレポートをご覧ください



生協の2030環境・サステナビリティ政策 「10の行動指針」と 2030目標



行動指針 1

エシカル消費に対応した商品を拡大・普及させ、エシカル消費に共感できる消費者を社会の中に増やしていきます

Action!

エシカル消費対応商品として、環境や社会に配慮した商品を拡大します。組合員との学び合いと広げ合いによってエシカル消費・エシカルなライフスタイルを社会に普及させていきます

目標

- 2030年までに2013年度比でCO₂排出量を50%以上削減
- 2050年までにCO₂排出量実質ゼロ
- サプライチェーン排出量についても排出量の算定を進め2℃を十分に下回る水準で目標設定を目指す

行動指針 2

生協事業のサプライチェーン全体と、組合員の生活における温室効果ガス排出削減に取り組みます

目標

2030年までに年間発電量4億kWhの再生可能エネルギーを開発

行動指針 3

再生可能エネルギーの開発を通して、日本における再生エネ導入を増加させるとともに、持続可能な地域づくりに貢献します

目標

- 使い捨てプラスチック製容器包装の使用量を2030年に2018年度比で25%削減
- 商品カタログに使用する紙使用量を2030年に2021年度比で25%削減

行動指針 4

生協事業で使用するプラスチック製容器包装と紙を削減します。また、持続可能な原材料への切り替えを進めます

行動指針 5

生協事業から排出される容器包装等の回収・リサイクルを、組合員とともに推進します

Action!

組合員の協力を得ながら、店頭のリサイクルボックスや宅配車両を活用して、容器包装や商品カタログ、宅配用内袋等の回収を進めます

行動指針 6

生協事業ならびに組合員家庭から生じる食品廃棄物・食品ロスの削減を進めます

- 食品廃棄物を2030年に2018年度比で50%削減

目標

行動指針 10

生協の環境・サステナビリティに関わる取り組み状況を積極的に公開し、社会との対話を進めます

Action!

本政策の数値目標や進捗状況を積極的に公開し、生協の取り組みの「見える化」を図ります。さまざまなステークホルダーとの対話や意見交換を進めます

行動指針 9

環境・サステナビリティに関わる諸課題を解決するために、新たな協働の取り組みにチャレンジします

Action!

生産者をはじめ環境NGOや市民団体、自治体や企業連合(イニシアティブ)などのパートナーシップにより、新しい取り組みに挑戦します

行動指針 8

自然の豊かさを未来につなぐ環境保全活動と、生物多様性保全に向けた事業を進めます

Action!

組合員とともに環境保全活動を進め、自然共生社会の実現を目指します。環境に配慮した原材料調達や産直事業、動植物保全プロジェクトを展開します

行動指針 7

バリューチェーン全体において人権尊重の取り組みを進めます

Action!

職員・組合員・取引先とともに人権問題について学び、人権方針の策定と人権デュー・ディリジェンスを推進します